

平成28年度事業報告

平成28年度は法人の経営組織の在り方や事業運営の透明性の向上など、平成29年度が具体的取組みの初年度となる社会福祉法人制度改革の準備の年でありました。限られた時間での作業ではありましたが、所轄庁である新庄市、県社協のご指導をいただきながら取り組み、新たな役員体制を築くことができました。

少子高齢化の進行が続き、子どもや高齢者への虐待、待機児童や介護離職などの課題も指摘され、また、社会的孤立、生活困窮など制度のはざままで支援の手が届きにくい地域・家族の問題も浮き彫りとなってきています。このような社会情勢の中、新庄市社会福祉協議会は平成28年度も関係団体・関係機関のご協力のもと、「第3期新庄市地域福祉活動計画」の基本理念である『安心して暮らせる 未来 たすけあいのまち 新庄』を実現するために、地域福祉の推進と諸課題の解決に取り組んでまいりました。

もみの木訪問介護事業所では、利用者アンケートの要望により新たに「福祉有償運送サービス」を開始いたしました。住民の皆様へのサービスをより充実させるために、現行サービスの見直しを図りながら、今後も新庄市の在宅福祉の推進を目指してまいります。

もみの木介護支援事業所では利用者に対し可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう、複雑な問題を抱えるケースも積極的に取り組み、利用者、ご家族共に在宅での安心した生活ができるように適正なケアプランの作成に努めました。

新庄市地域包括支援センターでは、行政と連携して自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自立した生活を送れるようリハビリ等専門職の助言をいただきながら個別課題解決に努めました。元気高齢者の居場所づくりとして「いきいき100歳体操」の普及を図り、地域社会の中での基盤整備をすすめる一方、認知症サポーター養成講座を定期的で開催し、28年度は200名近くの認知症サポーターが誕生しました。

生活困窮者への支援として、これまで実施してきた生活福祉資金や小口貸付の事業に加え、「コープ東北サンネット事業連合」とコープフードバンク協定を締結し、フードバンクからの食料品を提供する支援を開始いたしました。

ボランティア活動の場所・内容を記載した情報冊子「新庄市ボランティアガイド」を作成し、市民参加によるボランティア活動の推進に努めました。

市受託事業である市内4ヶ所の学童保育所運営事業では、待機児童の解消に向けた保育の量的拡大・確保として日新放課後児童クラブの定員を増加、職員も増員し、子育て支援の充実を図りました。

本会は、女性の活躍推進・仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいると認められ、山形県より「山形いきいき子育て応援企業（実践企業）」として認定されました。「ふくしの仕事」は「人」が「人」にかかわる仕事です。働きやすい環境を整備することが福祉人材の確保、サービスの質の向上につながるものと考えます。職員の一人ひとりが本会の使命と地域の福祉ニーズを的確に把握し、一丸となって取り組んでまいります。

最後になりましたが、各種事業にご支援ご協力をいただきました関係各位に感謝申し上げます。平成28年度主要事業につきまして、次のとおりご報告いたします。

【法人・地域福祉事業】

1. 役員会等運営事業

(1) 理事会の開催

◇第1回理事会	平成28年	5月27日(金)	出席理事10名 出席監事2名
◇第2回理事会	平成28年	9月15日(木)	出席理事12名
◇第3回理事会	平成29年	1月24日(火)	出席理事12名
◇第4回理事会	平成29年	2月16日(木)	出席理事13名
◇第5回理事会	平成29年	3月28日(火)	出席理事11名 出席監事2名

(2) 評議員会の開催

◇第1回評議員会	平成28年	5月27日(金)	出席評議員26名 出席監事2名
◇第2回評議員会	平成28年	9月15日(木)	出席評議員23名
◇第3回評議員会	平成29年	1月24日(火)	出席評議員20名
◇第4回評議員会	平成29年	3月28日(火)	出席評議員24名

(3) 監査の開催

◇第1回監査	平成28年	5月16日(月)	出席監事2名(平成27年度分)
◇第2回監査	平成28年11月	25日(金)	出席監事2名

(4) 委員会の開催

◇老人福祉センター運営委員会	平成28年	6月27日(月)	出席委員8名
◇歳末たすけあい配分委員会	平成28年12月	9日(金)	出席委員8名
◇新庄市たすけあい金庫 新庄市善意銀行運営委員会	平成28年12月	9日(金)	出席委員8名
◇表彰選考委員会	平成29年	2月22日(水)	出席委員5名
◇評議員選任・解任委員会	平成29年	2月22日(水)	出席委員4名

(5) その他

◇市定例監査	平成28年	6月15日(水)	市監査委員
◇会計訪問指導	平成28年	5月11日(水)	高山税理士
	平成28年	9月28日(水)	高山税理士
	平成29年	1月27日(金)	高山税理士
◇福祉サービス利用援助事業 ヒアリング	平成28年	6月24日(金)	県社会福祉協議会
◇県社協ヒアリング (地域福祉事業関連)	平成28年	8月23日(火)	県社会福祉協議会
◇生活福祉資金貸付事業 業務調査	平成28年10月	4日(火)	県社会福祉協議会
◇介護保険施設等実地指導	平成28年10月	13日(木)	最上総合支庁 地域保健福祉課
◇パートタイム労働調査	平成28年12月	6日(火)	山形労働局 雇用環境・均等室
◇社会福祉法人監査	平成29年	3月15日(水)	新庄市成人福祉課

2. 事務局運営事業

関係機関及び団体との連携

① 行政(新庄市)との連携

- ・社会福祉法の改正に伴う諸手続きに関し、所轄庁としての助言・指導をいただきました。
- ・社会福祉協議会事業の情報の共有に努め、市の広報紙等に掲載協力をいただきました。
- ・社会福祉協議会運営費、老人福祉センター運営費・修繕費への補助をいただきました。
- ・地域包括支援センター運営事業、高齢者在宅生活支援事業、要介護認定調査、放課後児童健全育成事業、地域活動組織育成支援事業、福祉バス運行管理事業、敬老会支援事業を委託事業として実施しました。
- ・福祉サービス利用援助事業、貸付事業等の制度・サービスの運営における要援護者の支援を連携して行ないました。

② 区長協議会との連携

- ・社会福祉協議会の協力員として、常に市民の先頭に立ち地域福祉事業及び共同募金事業などの普及活動や啓蒙、広報誌の配布、会費・募金の徴収等幅広く協力をいただきました。

③ 民生委員児童委員協議会との連携

- ・社協の各種事業を進めるうえで、ニーズの把握や情報提供に協力いただきました。
- ・生活福祉資金貸付事務事業では、低所得者世帯の更生を図るため、指導や意見、対象世帯の見守りを行なっていただきました。
- ・歳末たすけあい募金の配分実施では、対象世帯の調査及び配布の協力をいただきました。
- ・新庄市民生委員児童委員研修会へ参加し、民生委員の見守りに活用できる社協の事業の情報提供を行ないました。

④ 県社会福祉協議会との連携

- ・社会福祉法の改正に伴う諸手続きに関し、助言・指導をいただきました。
- ・生活福祉資金貸付事業・福祉サービス利用援助事業を委託事業として実施しました。
- ・社会福祉関連事業を進める上で指導、意見をいただきました。

⑤ 関係諸団体との連携

- ・各婦人会、老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、戦没者遺族会、更生保護女性会やその他の関係諸団体と、共同募金活動、ワナゲ大会等、各事業において連携と協力をいただきました。

(事業効果等)

各機関、団体の指導・協力により、円滑な社協事業の運営が図られた。

3. 会 費

会費の納入に理解を求めるとともに、納入の便宜を図るため金融機関（新庄信用金庫・新庄市農協・新庄もがみ農協）での振込を促進しました。また、6月下旬の5日間の期間、市役所内で行う各種会費等の集中受付に同席し、社協窓口を設け、納入の簡便化に努めました。

平成28年度実績額	前年度実績額	前年度比較	対前年比	振込利用件数
8,023,400円	8,121,800円	△98,400円	98.79%	19件

集中受付期間 6月20日～24日

期間中社協会費納付地区数 158町内

(課題等)

会費の納入率が低下傾向にあり、社協事業への理解・協力を求める為、行事開催度に、参加者に対して事業周知を行なうことを継続する。

4. 実習生の受入れ

福祉に関する様々な制度が増え、福祉ニーズも複雑・多様化している中で、専門的な知識や技術を有する人材の育成のため、資格取得を目指す学生等の受入れを行ないました。

(事務局)

【社会福祉相談援助実習】

社会福祉士国家資格の受験資格を取得するための専門知識・援助技術を現場での実践において主体的に学び、省令の専門職の基本的程度を育成する実習です。

東北福祉大学社会福祉学部学生1名 受入期間 平成28年
5月30日(月)～6月30日(木)

(訪問介護事業所)

【介護福祉士養成】

東北文教短期大学学生1名 受入期間 平成28年
8月3日(水)～8月4日(木)

東北文教短期大学学生1名 受入期間 平成28年
8月8日(月)～8月9日(火)

(介護支援事業所)

【介護支援専門員実務研修実習】

実習生1名 受入期間 平成29年1月24日(火)
1月27日(金)
1月30日(月)

実習生1名 受入期間 平成29年1月27日(金)
1月30日(月)
2月3日(金)

(地域包括支援センター)

【社会福祉援助技術実習指導の体験学習】

東北福祉大学通信教育学部学生1名 受入期間 平成28年
5月17日(火)～5月19日(木)

【社会福祉相談援助実習】

東北福祉大学通信教育学部学生1名 受入期間 平成28年
7月4日(月)～8月5日(金)

【訪問調査】

学校の総合学習の一環として、新庄市の高齢者支援について学習を深めるための訪問です。
山形県立天童高等学校生徒1名 受入期間 平成28年8月18日(木)

(事業効果等)

実習の受け入れを通して、専門的人材の育成が行なわれたとともに、業務を振り返り社協事業の専門性を再確認する良い機会となった。

5. 職員研修

既に行なっている個々の専門職としての知識・技術を高めるための継続的な研修の他に28年度は訪問介護事業所で福祉有償運送サービス事業を始めることから、改めて交通ルールの遵守と正しい交通マナーを再認識するために新庄警察署の職員を講師に迎え、交通安全講習会を開きました。

日 時：平成28年4月18日(月) 13時30分～15時00分

場 所：社協3階会議室

参加人数：29名

内 容：交通事故の発生状況及び運転する際の注意事項

6. 各種表彰該当者の推薦

第66回山形県・県民福祉大会

社会福祉の分野で顕著な御功績があった方に対し、その功を称え山形県及び山形県社会福祉協議会から表彰状が贈られました。

平成28年11月7日(月) 長井市民文化会館

《県知事表彰》

(敬称略)

社会福祉功労者 本澤 昌紀 (民生委員児童委員協議会連合会)

社会福祉功労者 加藤 香代子 (民生委員児童委員協議会連合会)

《山形県社会福祉協議会会長表彰》

一般社会福祉事業関係功労者 斎藤 昇 (身体障害者福祉協会役員)

7. 福祉教育の推進

高齢者や児童との関わりを通して、青少年期に支え合い意識の向上を学ぶことを目的としています。

【最上地区 中学生ボランティアリーダーセミナー】

開催日 平成28年8月9日(火) 13:00～14:30

場 所 最上広域交流センター ゆめりあ

参加者 最上地区中学生 38名

山形県教育委員会主催の「中学生ボランティアリーダーセミナー」に講師として参加し、超高齢社会を迎えている中、地域福祉の現状や課題について話し合い、「認知症サポーター養成講座」を通して、認知症への理解を深めることができた。

【除雪体験】

学 校 名	実 施 日	生 徒	教 師
新庄中学校	平成29年2月 3日(金)	13名	2名

明倫中学校	平成29年1月21日(土)	54名	10名
新庄リトルシニア (中学生硬式野球チーム)	平成29年2月5日(日)	20名	保護者9名
山形県立農林大学校	平成29年2月9日(木)	30名	2名

【傾聴ボランティア講座への参加】

- ・新庄コアカレッジ：実施日 平成29年3月14日(火)
場 所 最上広域交流センターゆめりあ
活動者 生徒10名・教師1名

【施設体験】

①山形県教育委員会発行の「YYボランティアビューロー」を通じて、夏休み・冬休み期間等のボランティア体験を募集し、活動につなげました。

実施日 平成28年8月中の2日間 中央学童保育所 明倫中学校生徒2名

②中学校からの施設慰問やボランティア体験の相談を受け、施設と連携し、活動場所のコーディネートを実施しました。

(1) 施設慰問

実施日 平成28年7月6日(水) みどりの大地 新庄中学校生徒20名

(2) 保育支援・施設環境整備

実施日 平成28年8月8日(月) 市内9施設(保育所等)

明倫中学校生徒60名

(事業効果等)

生徒が、高齢者や児童等、支援が必要な方に対して、地域で支えあう大切さを学んだ。学校側からの協力依頼が増えたことから、今後の推進体制が構築された。

8. 福祉サービス利用援助事業(山形県社会福祉協議会委託事業)

判断能力の低下により、福祉サービス利用の手続きや金銭管理等が困難な方につき、手続き・支払等の代行支援を行ないました。

最上管内利用件数 42件(前年度41件)内、新規契約締結件数 16件、解約件数 15件
平成28年度相談件数 451件(前年度386件)

〈最上管内利用件数内訳〉

	新庄	金山	鮭川	戸沢	舟形	大蔵
件数	36	3	0	2	1	0

(事業効果等)

生活上の多くの問題を抱える困難ケースが増加している。福祉行政、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、福祉関係事業所等との連携が密に図られた効果的な支援が行なわれた。新庄市内のケース件数が過去最多となり、今後も増加することが見込まれる。

9. 生活福祉資金貸付事業(山形県社会福祉協議会委託事業)

低所得者世帯等の経済的自立と生活意欲の助長を図るため、貸付を実施しました。

〈平成28年度貸付内訳〉

資金種類		件数	貸付金額
総合支援資金	生活支援費	1件	216,170円
	一時生活再建費	0件	0円
福祉資金	福祉費	1件	372,000円
	緊急小口資金	8件	563,000円
教育支援資金		6件	3,501,000円
合計		16件	4,652,170円

(事業効果等)

慢性的な低所得状況にある世帯からの相談が増加している。特に母子世帯からの生活費や教育費の相談が顕著であった。福祉行政・生活自立支援センター・民生児童委員など関係機関と連携を密にして、包括的に支援することができた。滞納者に対しては、早期に対応し、世帯の状況に即した相談援助・指導を行なった。

10. 地域活動組織育成支援事業（地域ふれあいサロン事業 市委託事業）

閉じこもりや、介護予防を目的として地域サロンの立ち上げや活動の助言等の支援を行ないました。

◇サロン活動を活性化するため、他地区サロンとの交流や意見交換の場として、「地域ふれあいサロン交流会」を実施しました。

日時：平成28年10月26日（水）9時30分～12時00分

場所：新庄市民プラザ

参加人数：46名（15サロン）

内容：1. 情報交換会「わたしたちサロンにできること」
2. 笑いヨガ 「笑いで心身を開放しよう」

講師：三瀬 英樹 氏（笑いヨガティーチャー）

◇サロン活動の実施状況

	開催地区	実施回数（回）	参加人数（名）
1	仁田山	12	101
2	下金沢	9	105
3	金沢新町	24	264
4	柏木山	9	76
5	泉田	12	162
6	本合海	22	189
7	老人福祉センター	21	253
8	あたご	8	71
9	円満寺	9	72
10	本宮一区	21	325
11	桜通り東	10	117

12	野 際	1 1	8 7
13	八 向	1 2	1 5 4
14	西 町	1 2	7 7
15	千 門 町	2 6	3 8 4
16	東 山	1 0	1 2 7
17	松 枝	1 1	1 1 6
18	上 西 山	1 2	1 3 8
19	下 仲 町	7	6 5
20	若 葉 中 央	1 2	8 0
21	上 仲 町 (新)	1 0	8 6
22	吉 袋 (新)	1 1	2 1 9
23	北新町団地 (新)	1 0	9 0
24	鳥 越 (新)	4	7 4
	合 計	3 0 5	3, 4 3 2

(事業効果等)

各サロンの自主性が高まってきており、活動が定着している。28年度から新たに4地区(上仲町、吉袋、北新町団地、鳥越)のサロンが立ち上がった。また、市健康課・市民課・環境課の健康増進・防犯・交通安全等の出前講座を活用することで市との連携が深まった。

1.1. 福祉バス管理事業(市委託事業)

市の委託を受け、福祉バスの運行管理を行ないました。

利用団体	件数	社協事業	件数
老人クラブ	10	地域活動組織育成支援事業 (地域ふれあいサロン事業)	13
障がい者団体等	16		
民生委員児童委員	9		
福祉関係団体	7		
高齢者団体(スポーツ)	2		
児童関係団体	6		
行政	2		
その他	5		
合 計	57	合 計	13

(事業効果等)

より多くの福祉関係団体が安全に利用できるように、新庄市福祉バス運営要綱に基づき実施した。

1.2. 敬老会支援事業(市委託事業)

市の委託を受け、敬老会開催地区について開催費用の一部を助成しました。

開催地区 17地区 参加者 717人

補助金額 628,740円

(事業効果等) 助成対象経費を整理し助成することにより、敬老会の内容の充実が図られた。

1.3. 新庄市たすけあい金庫事業

低所得者に自立支援として、民生委員の調査書・連帯保証人を要件に、50,000円を限度として貸付を行なう事業です。

			平成28年度	前年度	対前年比 (%)
現 年 度	貸出	件数	0件	0件	0
		金額	0円	0円	0
	未償還	件数	0件	0件	0
		金額	0円	0円	0
全 体	未償還	件数	0件	2件	0
		金額	0円	49,000円	0

(事業効果等)

平成28年12月9日に開催した「新庄市たすけあい金庫運営委員会」にて、長期滞納の2件(49,000円)を償還免除し、貸付件数が0件となった。平成22年度以降貸出するケースがないことから、今後は事業の必要性・継続性について検討していく。

1.4. 新庄市善意銀行事業

30,000円を限度に生活困窮者世帯に貸付を行ないました。

			平成28年度	前年度	対前年比 (%)
現 年 度	払出	件数	0件	0件	0
		金額	0円	0円	0
	貸出	件数	33件	42件	78.57
		金額	790,000円	1,011,000円	78.14
	未償還	件数	20件	22件	90.91
		金額	365,000円	549,000円	66.49
全 体	未償還	件数	43件	53件	81.13
		金額	812,500円	1,042,500円	77.94

(事業効果等)

一時的な支出や生活費が不足し、急を要するケースに迅速かつ柔軟に対応した。滞納者については、電話や訪問による償還指導を行った。生活困窮者の自立に向けた相談が多いため、生活自立支援センターもがみと連携して相談対応を行なった。

〈参考〉貸付年度別未償還件数

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	合計
件数	2	4	7	1	3	3	2	3	18	43

◇フードバンクの提供

5月31日（火）に新庄市内の生活困窮者世帯向けに食品を無償で提供する「コープフードバンク」の協定を「コープ東北サンネット事業連合」と締結しました。28年度は生活自立支援センター等の関係機関と連携し、新庄市内の45世帯に食品を提供いたしました。

1.5. 中央学童保育所運営事業（堀端町）・日新放課後児童クラブ運営事業（松本）・

北辰学童保育所運営事業（北辰小学校内）・萩野放課後児童クラブ運営事業（萩野学園内）
（市委託事業）

市の委託を受け、市内4ヶ所の学童保育所を運営しました。

施設	対象学区	職員数	年間開所 日数	定員	利用児童数（名）			
					年間利用者数	年度当初	年度末	1日あたり 利用人数
中央	新庄・沼田	4名	289日	60名	10,069	60	46	35
日新	日新	7名	288日	80名	17,254	80	76	60
北辰	北辰・泉田	2名	287日	25名	3,030	15	15	11
萩野	萩野	3名	288日	40名	6,615	40	35	23

（事業効果等）

学童保育に必要な基本的な生活習慣の習得の援助、自立に向けた支援、家庭と連携した生活支援等に必要な知識・技能を習得するため、放課後児童支援員認定資格研修を受講し、12名の職員が取得し、スキルアップを図った。

（課題等）

中央学童保育所の建物が老朽化しており、子ども達が安全に過ごせる環境を整備するため、市と協議する。

1.6. 連絡調整育成指導事業

下記の団体に補助金を交付しました。

団体名	内容等	金額（円）
新庄市戦没者遺族会	戦没者遺族者活動事業への支援 （市補助金218,000円）	218,000
新庄市民生委員児童委員協議会	調査協力費の交付	56,000
新庄市更生保護女性会	青少年非行防止等事業への助成	43,000

1.7. 企画・広報・情報事業（共同募金配分金事業）

（1）広報紙「社協だより」の発行

- ◇第30号 平成28年 7月発行 全戸配布
- ◇第31号 平成28年11月発行 全戸配布
- ◇第32号 平成29年 3月発行 全戸配布

（事業効果等）

社会福祉協議会の事業内容や福祉情報、地域福祉活動を幅広く掲載し、市民の地域福祉活動への関心をより高めるとともに、各種情報の提供を行なうことができた。

(2) ホームページの運営

◇ホームページへの掲載

(事業効果等)

掲載情報の充実・迅速をこころがけ、イベントや事業報告などの更新に努め、鮮度の高い情報の提供を行なうことができた。また、29年度にホームページを新たに作成するための財源として、山形県共同募金会へ「地域福祉・在宅福祉事業配分」の申請を行ない、事業費の4分の3の助成を受けることとなった。

(3) フェイスブックの運営

◇フェイスブックの更新

(事業効果等)

地域包括支援センターにおける研修会等の事業実施内容等を拡散性が強いフェイスブックで周知することにより、「認知症サポーター養成講座」・「自立支援型地域ケア会議」などの告知について広く情報提供することが出来た。

18. 助成金事業（共同募金配分金事業）

下記の団体との協働を図り、その活動を援助するため負担金等の助成をしました。

事業実施福祉団体	内容等	金額（円）
新庄市身体障害者福祉協会	障がい者スポーツ振興への助成	28,000
新庄市手をつなぐ育成会	レクリエーション大会参加等事業への支援	36,000
社会を明るくする会	少年犯罪・非行の防止、更生援助への支援	28,000

(事業効果等) 各団体における事業の推進を図った。

19. 社会福祉協議会表彰等事業（共同募金配分金事業）

(1) 社会福祉協議会表彰 平成29年3月10日（金） 社会福祉協議会3階会議室
社会福祉事業に多大な貢献のあった個人・団体に対し、その功を称え表彰を行ないました。

◇ 会長表彰受賞者 3名

《一般社会福祉事業関係功労者》 (敬称略)

森 幸俊 (新寿会職員)

福井 栄子 (更生保護女性会役員)

鈴木 淳一 (身体障害者福祉協会役員)

◇ 会長感謝状 1名・1団体

太田 進

郵便局長会最上北部会

(事業効果等) 顕彰により更なる研鑽・貢献が期待できる。

(2) 敬老祝い品の贈呈

長寿の方々に会長の祝詞を添え、祝い品の贈呈を行ないました。

白寿対象者 9名 (男 4名 女 5名)

米寿対象者 262名 (男 90名 女 172名)

(事業効果等) 祝い品の贈呈により、長寿の方への尊敬・感謝の想いを示した。

20. 心配ごと相談事業（共同募金配分金事業）

◇弁護士相談 新庄ひまわり基金法律事務所 神永夕貴弁護士

毎月第3週木曜日（午後1時30分～午後4時）

◇一般相談（社協職員対応）

平日（午前8時30分～午後5時15分）

相談内容	弁護士相談	相談内容	一般相談
借金・多重債務	10件	生 計	47件
離 婚	9件	高齢者・介護	2件
遺言・相続	9件	障 が い	3件
近隣トラブル	3件	除 雪	5件
財産・不動産	9件	ボランティア	5件
高齢・障がい	1件	そ の 他	5件
労 働	4件		
消 費 者	3件		
苦 情	0件		
そ の 他	7件		
合 計	55件	合 計	67件

（事業効果等）

弁護士相談は、法的な対応を要する問題の解決に向けての方向性を示し、適切なアドバイスを行なっていただいた。一般相談は、生活困窮に関する相談が多く、福祉行政、生活自立支援センター・民生児童委員・山形県社協などの関係機関と連携して、迅速かつ包括的な支援を行なうことができた。

21. 援護事業（共同募金配分金事業）

災害被災者・交通遺児への支援

- ・市環境課のご協力をいただき、小学生から高校生までの交通遺児に激励金を支給しました。
- ・市環境課のご協力をいただき、火災により、住宅全焼となった世帯に災害見舞金を支給しました。

	対 象 世 帯	金 額 (円)
災 害 見 舞 金	3	60,000
交 通 遺 児 激 励 金	3 (3名)	45,000

（事業効果等）

28年度は例年より火災が多く、3世帯に見舞金を支給した。

交通遺児激励金については、3世帯と減少傾向にあるが、激励の意を表すことができた。

22. 児童遊び場整備事業（共同募金配分金事業）

地域で管理している児童遊園の遊具の修繕費用や保全に必要な原材料の給付を行ないました。

	申請地区数	総事業費（円）	地元負担金（円）	交付金額（円）
遊具の修繕	3地区	224,640	55,628	169,012
		横根山・角沢・金沢新町		
原材料支給	13地区	209,573	—	209,573
		赤坂・昭和三・横根山・野中・角沢・升形下二・塩野・市野々・本宮一区・あたご・長坂・中川原・升形上二		

（事業効果等）

区長と連携し、子ども達が安全に遊べるよう地域の遊び場の保全に協力できた。

23. 高齢者健康対策振興事業（共同募金配分金事業）

第25回会長杯ワナゲ大会

平成28年6月29日（水） 参加者総数 276人 : 参加チーム数 43チーム
新庄市体育館の耐震工事が完了し、例年通りの規模での開催となりました。

	団体の部	個人の部	
		男子	女子
優勝	新松会A	丹 ^{つよし} 勁 (上茶屋町茶遊会A)	矢作昌子 (新松会A)
準優勝	上茶屋町茶遊会A	石山宣助 (末広町寿会A)	高橋勝子 (中道町健友会)
第3位	中道町健友会	押切 守 (桧町桧和会)	佐藤賀志子 (新松会A)

(敬称略)

（事業効果等）

事業が定着し、高齢者の健康増進と運動能力の開発、いきがいつくりに貢献することができた。28年度から市健康課が加わり、健康増進をより図ることができた。また、新庄警察署の特殊詐欺防止の取組みと連携し、NHK・YTSのテレビ局、山形新聞などのメディアを通じて事業を広く周知することができた。

24. 愛のひと声運動事業（共同募金配分金事業）

一人暮らし高齢者世帯などに乳酸飲料を配達し、ひと声かけることで安否確認を行ないました。

配達日 毎週月・水・金曜日

利用者 27名 延回数 3,205回 (平成29年3月31日現在)

（事業効果等）

外出の機会や地域との交流が少ない一人暮らし高齢者の安否確認として、大いに機能した。ヤクルト配達員やケアマネジャー等と連携し、見守りを行なうことができた。

25. 給食サービス事業（共同募金配分金事業）

市内3業者の協力により、一人暮らし高齢者世帯等へ月2回弁当配達を行ないました。

配達日 毎月第2・第4金曜日

利用者数 14名 配食数 345食 (平成29年3月31日現在)
配達業者 新庄給食センター・ツルアメ・おくやまストア
(事業効果等)

月2回の配達ではあるが、高齢者の「食」への楽しみや見守りが図られた。

26. 高齢者世帯等除雪支援事業（共同募金配分金事業）

- ・高齢者等の除雪に対する相談に応じ、適切なサービスに結びました。
- ・企業、学校等と連携を図りながら、高齢者世帯の自宅の除雪を実施しました。

対象世帯 14世帯（実施回数 15回）参加者延べ179名
協力企業・学校 (株)柿崎工務所、郵便局長会最上北部会、山形県立農林大学校
新庄中学校、東北電力(株)、新庄青年会議所、明倫中学校
新庄リトルシニア（中学生硬式野球チーム）

(順不同・敬称略)

外 個人ボランティア3名

(事業効果等)

他から作業的・金銭的支援が受けられない高齢者世帯等の除雪に対する不安が解消された。今年度から新たに新庄青年会議所、明倫中学校が加わり、ネットワークが広がった。

27. ボランティア活動推進事業

- ・ボランティアセンターとして、情報提供や活動場所との調整を行ないました。
- ・ボランティア活動保険の加入業務を行ない、ボランティア団体の把握に努めました。
- ・ボランティアに関する研修会を実施し、ボランティアの育成を行ないました。

(1) ボランティアはじめよう！講座

開催日時：平成28年11月22日（火）13時30分～15時30分

場 所：最上広域交流センターゆめりあ

参加人数：22名

内 容：①講義：「ボランティア基礎編」
②グループワーク（情報交換）
③ボランティア活動先の紹介

講 師：山形県社会福祉協議会地域福祉部地域支援係長

山形県ボランティア・市民活動振興センター長 横尾 晃 氏

- ・ボランティアの基本原則や心構えを学び、活動につながるよう情報交換や活動場所の紹介等を行ないました。

(2) 傾聴ボランティア講座

開催日時：平成29年3月14日（火）13時30分～15時30分

場 所：最上広域交流センターゆめりあ2階会議室

参加人数：46名

講 義：「聴くこと それだけで 援助になる」 中級編

講 師：庄内傾聴塾 指導者 梅津幸士 氏


- ・話を聴いてほしい方の話し相手となり、心のケアや孤独感の軽減を支援する傾聴ボランティアの養成を目的に、傾聴技術の向上を図りました。今回は中級編ということで、より実践的な内容で開催し、多くの方が参加されました。

(3) ボランティア団体、個人、ボランティアとの協働

- ・理美容ボランティア「チョコボラ」の利用支援・ボランティアとの連携。
- ・傾聴ボランティア：新庄薬師園・エーデルワイス・神室荘のご協力により、話をする機会の少ない方を対象に傾聴を実施しました。
実施回数 8回 傾聴人数 101名 ボランティア12名
- ・大工ボランティア：新庄建築大工組合のご協力により、低所得高齢者7世帯の老朽化した家屋の軽微な修繕を実施しました。
- ・公共施設、福祉施設の
除雪ボランティア：雪の里情報館（実施回数2回 ボランティア45名）
活動団体 郵便局長会最上北部会
さくらはうす（実施回数1回 ボランティア10名）
活動団体 郵便局長会最上北部会

(4) 「新庄市ボランティアガイド」の作成

- ・ボランティア活動の基本や活動場所の情報を掲載したガイドブックを作成しました。

28.  元気・ハツラツ予防体操事業（新規事業：共同募金 地域福祉・在宅福祉事業配分）

昨年度まで、老人福祉センターの文化教室として実施していた「介護予防体操教室」を、利用者拡大のため、老人福祉センターと新たに社会福祉協議会の2階を実施場所として事業を行いました。高齢者の方々の生きがいを見つけ、いつまでも自分らしく健康で生活ができるように、運動機能の向上を目的として行なう予防体操です。

開催日時・場所：①毎月第1金曜日 13時～14時 社会福祉協議会2階
②毎月第3金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室

参加人数：566名

実施回数：21回

講師：公益社団法人山形県柔道整復師会
植木 俊和 氏（植木整骨院）
早坂 耐希 氏（早坂整骨院）
加藤 修 氏（かとう整骨院）

（事業効果等）

継続的に参加することにより、顔見知りが増え、健康増進のほか生きがいづくりにも繋げることができた。

【老人福祉センター運営事業】

1. 老人福祉センター施設管理事業

高齢者のふれあい、生きがいづくりの場として、より多くの方々にご利用いただけるよう運営に努めました。

◇利用者の方々が非常時において速やかに行動し避難できるよう、出火場所を想定し、避難警報ベルによるセンター利用者の避難誘導、消防本部への通報訓練や水消火器による消火訓練を実施しました。

実施日：平成28年12月1日（木）

参加者：老人福祉センター利用者 23名

内容：①利用者の避難誘導
②消防本部への通報訓練
③消火器取扱い訓練

(1) 老人福祉センター利用状況

		平成28年度	前年度	対前年比 (%)
開館日数		303 日	302 日	100.33
利用者	延べ人数	12,249 人	11,431 人	107.16
	内、団体利用者数	12,249 人	11,228 人	109.09
	団体数	1,420 団体	1,336 団体	106.29
	1日の平均利用者数	40.4 人	37.9 人	106.60

(2) 文化教室別利用状況（社協主催事業 共同募金配分事業）

文化教室種類	平成28年度 (人)	前年度 (人)	対前年比 (%)
介護予防体操教室	—	648	—
筆ペン教室	—	152	—
いけ花教室	128	153	83.66
手づくり教室	169	155	109.03
絵手紙教室	73	—	—
合計	370	1,108	33.40

介護予防体操教室は、28年度から社協単独事業として「元気・ハツラツ予防体操」に移行しました。筆ペン教室は27年度で教室を終了しました。

(3) カラオケルーム利用状況

27年度より、カラオケの通信機器を導入し、定期的に利用者の皆様に最新の曲が提供できる環境を整え、利用者の皆様に喜んでいただいております。

	平成28年度	前年度	対前年比 (%)
利用件数	347 件	343 件	101.17
利用人数	2,339 人	1,724 人	135.67

2. 老人福祉センター施設整備事業

屋根防水修繕工事	3,348,000円	(株)新庄・鈴木・柴田組
駐車場整備工事	540,000円	(株)新庄工務所
簡易渡り廊下設置費	49,298円	(新庄最上地域シルバー人材センター)
第1会議室エアコン修繕	21,982円	(マルゲン電機商会)

(事業効果等)

老人福祉センターの安全性及び利便性を考慮し、修繕を行なった。

駐車場については、市保健センターのご理解とご協力を得て、老人福祉センター北側に整備を行ない、老人福祉センターの利用者数の増加を図ることができた。

【共同募金事業】

山形県共同募金会新庄市支会と連携し、区長をはじめ多くの市民・団体等のご協力を得て募金活動を推進しました。

1. 赤い羽根共同募金

〈募金内訳〉

	平成28年度 (円)	前年度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	3,960,400	4,056,000	97.64
企業募金 (会社・商店533、個人4)	1,773,812	1,790,758	99.05
街頭募金 (9団体)	122,837	130,903	93.84
学校募金 (市内16校)	216,491	143,376	151.00
職場募金 (14事業所)	61,384	39,667	154.75
篤志募金 (市民有志等)	156,134	144,473	108.01
合計	6,291,058	6,305,177	99.78

※企業募金にご協力いただきました会社・商店については、平成29年3月発行の「社協だより」第32号に掲載しております。

〈配分内容〉

配分先	すぎのこハウス、はぐくみ保育園、新庄市社会福祉協議会
配分事業	老人福祉センター文化教室、愛のひと声運動事業、給食サービス事業、高齢者世帯除雪支援事業、助成金事業、児童遊び場整備事業、社会福祉協議会会長表彰、白寿・米寿祝い品贈呈、心配ごと相談事業、援護事業、ボランティア活動推進事業、ワナゲ大会の開催、広報紙の発行、ホームページの運営等

(事業効果等) 募金の配分金を福祉施設の整備や地域福祉事業に活用し、地域への還元を図った。

〈参考〉

街頭募金協力団体	日新区婦人会、沼田学区婦人会、新庄市身体障害者福祉協会、新庄市更生保護女性会、山形県社会福祉士会最上支部、新庄市交通安全母の会、日新中学校、明倫中学校、はぐくみキッズ放課後クラブ
学校募金協力校	新庄小学校、沼田小学校、日新小学校、北辰小学校、升形小学校、萩野学園、本合海小学校、新庄中学校、明倫中学校、日新中学校、八向中学校、新庄北高等学校(全日制)、新庄南高等学校、新庄神室産業高等学校、新庄東高等学校、新庄養護学校
職場募金 (募金協力・ 募金箱設置協力)	新庄市役所、特別養護老人ホーム新寿荘、最上広域市町村圏事務組合、最上地区広域連合、(財)新庄市体育協会、最上総合支庁売店・県立新庄病院売店、友愛園、新庄市老人福祉センター、JuJu マルシェ、よつば調剤薬局、シルバー人材センター、セブイレブン新庄新町店、新庄市社会福祉協議会
篤志募金	石山宣助、阿部次郎、門脇茂、小関俊也、鈴木幹男、菅原富喜、小原芳子、新庄市職員労働組合、ワナゲ大会会場、老人福祉センターまつり会場、外匿名4名

(順不同・敬称略)

2. 歳末たすけあい募金

(1) 募金活動

〈募金内訳〉

	平成28年度(円)	前年度(円)	対前年比(%)
戸別募金(町内)	1,986,700	2,028,600	97.93
篤志募金(市民有志等)	11,661	42,379	27.52
合計	1,998,361	2,070,979	96.49

篤志募金協力： 大手幼稚園 (敬称略)

(2) 歳末たすけあい運動

共同募金運動の一環として、市民の皆様からお預かりした歳末たすけあい募金について、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう配分委員会を開催し、効果的に配分しました。

〈配分内訳〉

世帯区分	対象世帯数(世帯)	配分金額(円)
準生活保護世帯	6	90,000
母子・父子世帯	12	180,000
一人暮らし高齢者世帯	41	615,000
高齢者夫婦世帯	6	90,000
障がい者世帯	9	135,000
その他困窮世帯	10	150,000
合計	84	1,260,000

・配分額 現金15,000円×84世帯=1,260,000円

白米：600Kg (60袋)

・地域福祉活動費として679,361円 共同募金会新庄市支会事務費として59,000円

(事業効果等)

配分金は民生委員児童委員の協力を得て、効率的に調査・配分することができた。白米は、今年度も谷地小屋の太田進氏からご寄付としていただいた。

【介護等支援事業】

1. 介護支援事業(もみの木介護支援事業所)

介護支援専門員 5名

利用者や家族の相談に応じ、医療機関や他事業所との連携を図りながら、効果的なケアプランの作成と利用者の利便性向上に努めました。

		平成28年度	前年度	対前年比(%)
介護支援事業	件数	1,747件	1,882件	92.83
	収入	27,431,900円	29,431,290円	93.21
要介護認定調査	件数	156件	179件	87.15
	収入	505,440円	579,960円	87.15

介護予防 ケアプラン	件数	364件	397件	91.69
	収入	1,120,320円	1,544,850円	72.52
合 計	件数	2,267件	2,458件	92.23
	収入	29,057,660円	31,556,100円	92.08

(課題等)

昨年度は施設入所の他に、在宅生活を継続したい独居者が一般的な居宅のサービスでは足りないため小規模多機能型居宅介護への紹介が多くありました。今後も特定事業所としての機能充実を図り、複合的な生活課題を抱える困難ケースへ積極的に対応して、安心して在宅で介護できるように支援を行ない、利用者の拡大に努めてまいります。

2. 訪問介護事業（もみの木訪問介護事業所） 介護福祉士 8名
ホームヘルパー2級 16名

利用者の状況を把握し、利用者の必要な支援は何なのかを見極め、関係機関との連携をとりながら支援に努めました。

		平成28年度	前年度	対前年比(%)
訪問介護 事業	件数	997件	1,147件	86.92
	収入	48,393,374円	58,029,593円	83.39
高齢者在宅生活 支援事業	件数	7件	22件	31.82
	収入	150,000円	318,000円	47.17
障害者自立 支援事業	件数	114件	170件	67.06
	収入	7,320,460円	7,909,330円	92.55
ひまわり介護 サービス事業 (福祉有償運送 含む)	件数	118件	143件	82.52
	収入	774,630円	1,261,350円	61.41
合 計	件数	1,236件	1,482件	83.40
	収入	56,638,464円	67,518,273円	83.89

(課題等)

- 平成29年4月から新しい総合事業の実施を行ないます。利用者全体の相当数が該当者と考えられ、今までの単価の2割減と低くなるため、介護保険料収入の低下は避けることができない厳しい状況です。
- サービスの質を高め、安心できる内容を提供するためにも、それを支える従事者の資質向上と、人と共感できる豊かな人間性をもつ人材の育成が重要であると考えます。
- 介護員の退職や、年齢層が高くなっていることから人材の確保に力を入れる必要があります。そのため、介護員の募集については、ハローワーク・山形県福祉人材センター・社協広報紙において継続して行なってまいります。

【地域包括支援センター運営事業】

1. 地域包括支援センター事業
- | | | | |
|--------------|----|------------|----|
| 主任介護支援専門員 | 2名 | 保健師 | 2名 |
| 社会福祉士 | 2名 | 認知症地域支援推進員 | 1名 |
| 生活支援コーディネーター | 1名 | 事務補助員 | 1名 |

		平成28年度	前年度	対前年比 (%)
相談事業	総合相談	6,830件	7,738件	88.27
	内介護相談	4,704件	4,317件	108.96

(事業効果等)

住民の皆さんの地域包括支援センターへのご理解も広がり、相談件数の増加が見られますが、相談者が安心していただけるよう適切な支援や関係機関へ繋ぐなど対応しております。

市との共催で高齢者が安心して元気に地域で暮らすことを目指した「自立支援型地域ケア会議」を毎月一回開催し、ケアマネジャーの自立支援の理念の再確認と、自立支援に資するケアプランの作成への理解をいただいております。

また、ケアマネジャーの資質向上を目的とした「介護支援専門員資質向上連絡会」を定期開催し、検討会や専門職からの講話などを通して日々のケアマネジメント業務のスキルアップ、自己研鑽を図りました。

27年度から配置された「認知症地域支援推進員」は、認知症の方やその家族への支援、医療機関・関係機関との連携体制づくりを行なっています。また、地域の方々に認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者になっていただく「認知症サポーター養成講座」を28年度は5回開催しています。

併せて配置された生活支援・介護予防サービスの基盤整備を推進する「生活支援コーディネーター」は、高齢者の関わる地域資源開発や多様な受け皿の確保のための基盤整備を進めています。老人福祉センターで始まった「いきいき100歳体操」も開催地域が広がり、各地で高齢者が介護予防を楽しみながらでき、生きがいや健康増進に繋がる効果を期待しています。

2. 介護予防支援事業（もみの木介護予防支援事業所）

介護予防ケアマネジメント	平成28年度	前年度	対前年比 (%)
総件数	4,319件	4,089件	105.62
内センター作成分	1,221件	1,294件	94.36
委託件数	3,098件	2,795件	110.84
収入金額	19,109,800円	18,170,080円	105.17
委託費支出金額	12,374,370円	11,218,716円	110.30

(事業効果等)

新庄市における高齢化率の上昇に伴い、要支援認定者が年々増加している現状です。その背景には市民の健康寿命に対する意識が高まり、運動に特化したサービスの利用を希望している方が多く、それが要介護認定に繋がり介護予防プラン作成件数の増加に反映されています。

また、介護予防プランの作成については約3分の2を居宅介護支援事業所へ委託し、利用者の自立支援に資するケアプランが適正に作成されるようプランの確認を行なっています。